

設 立 趣 旨 書

橋梁の健全度診断技術に関する研究小委員会
(委員長 大阪大学 鎌田敏郎 教授)

(推薦学識委員 三木朋広(神戸大学)、大島義信(京都大学))

特に最近、橋梁をはじめとする既存の道路構造物を適確に維持管理し、延命化をはかるための取り組みが盛んに行われている。構造物の維持管理においては、現時点での健全度を把握するための診断技術が重要であるが、たとえば、コンクリートの品質や内部の欠陥などを非破壊で評価するための技術については、以前より精力的に研究および技術開発が行われてきてはいるものの、特に、現場施工の構造物の場合、用いられている材料や経過年数の違い、立地環境の違いなどに起因するさまざまな不確定要因の影響により、現時点では、必ずしも高い精度での診断は容易とはいえない手法を適用せざるを得ないケースもあるのが実情である。診断技術の研究開発においては、上記のような構造物ごとの事情をうまく反映させて評価精度を高めるための検討が不可欠であるが、発展途上の診断技術を実構造物に適用して検討を進める方式では、構造物管理者の理解や協力が必要であり、このあたりの研究体制の在り方にも課題を残しているのが現状である。

そこで本小委員会では、構造物管理者側委員が主体的に参画するスタイルである関西道路研究会の特徴を生かし、実際の構造物の健全度診断の場面で効果的に性能を発揮する診断技術を確立する上での官学民での研究開発体制の在り方について議論し、いくつかの具体的技術を通じたケーススタディなどを行うことを目的としている。この委員会では、官学民間の垣根を取り払った委員相互での率直な議論の成果として、上記に掲げた課題が解決されることを期待するものである。